File.2



18歳以下としては

市内初の２級審判員に！
世界を見据える若きレフェリー！

日本サッカー協会 公認サッカー2級審判員

太田碧飛（おおたあおと）さん

18歳。旭川商業高校３年生。高校１年生の６月に４級審判員の資格を取得し、自身も選手としてプレーしながら中高生や社会人の大会でこれまで140試合以上を担当。今年７月、日本サッカー協会（JFA）の海外派遣プロジェクトに北海道内から唯一選出され、スウェーデンで開催された国際大会「ゴシアカップ」に参加。同年８月には、18歳以下としては市内で初となる２級審判員の資格を取得した。

頑張る若者を紹介

NEXT A☆YOUTH（ネクスト エース）

A（旭川）×YOUTH（若者）＝エース

本市には夢に向かって努力を重ね、多様な分野で活躍する若者がたくさんいます。このコーナーでは、旭川から全国・世界へ羽ばたく、次世代の若きエースたちをご紹介します。　【詳細】広報広聴課☎25・5370



海外派遣プロジェクトでは、全国５人のうちの１人に選出！

なぜ選手ではなく審判を目指すのですか？

サッカー歴は約10年ですが、選手として強みを見いだせずにいました。高校１年生の時に、副審を経験した際**「自分が輝ける道、自分にしかできないことが審判にはあるんじゃないか」**と感じて、その魅力にのめり込んでいきました。

資格を取得した時の思いや、理想の審判像を教えてください

日々の試合で経験を積み、推薦をもらって初めて受験できるのが２級審判員です。受けること自体が難しく厳しい試験なので、合格した時は本当にうれしかったですね。今年の夏には、日本サッカー協会（JFA）の海外派遣プロジェクトでスウェーデンに行く機会もいただいて、言葉の壁に苦戦しながらも外国人選手と交流できたことは、すごくいい経験でした。

さまざまな経験をする中で、一番心に残っている試合がコンサドーレサマーカップです。監督の威信も懸かる重要な試合で「高校生には…」と心配の声もあったんですが、審判の先生が「すべての責任は自分が背負う覚悟で、彼にやらせてほしい」と信じて送り出してくれたんです。緊張しながらも全力で挑んだ結果、後半の審判も任せてもらえることになって。終了後には先生から「今までで一番良かった」という言葉をもらうことができて、大きな自信になりました。



先生が僕を信じて寄り添ってくれたように、**常に選手に寄り添い、関係者全員からリスペクトされる**、それが僕の目指す理想の審判像です。

今後の目標や夢を教えてください

将来の夢は、貴重な国際経験を積ませていただけたことを生かし、国際サッカー連盟（FIFA）の国際審判員になること。そして、日本人審判がまだ誰も立っていない**ワールドカップ決勝の主審として笛を吹くこと**が、僕の最終目標です！